

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2572300081		
法人名	三雲ケアサービス有限会社		
事業所名	グループホーム三雲		
所在地	滋賀県湖南市三雲ナガレ69		
自己評価作成日	平成22年10月20日	評価結果市町村受理日	平成23年2月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-shiga.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2572300081&amp;SCD=320">http://www.kaigo-shiga.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2572300081&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成22年11月22日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の笑顔があり、家庭的な雰囲気がある、活気がある。
------------------------------

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

社員寮を改装した当該ホームは、駅からも近く自然が多く残る住宅地にあります。「心生き活き、心楽しく、その人らしく」を理念に掲げ、元気で明るく笑顔が絶えず利用者が自然のまま毎日を過ごせるよう支援されています。利用者同士の楽しいお喋りの様子が見られたり、何気なく歌が飛び出してきて皆と一緒に歌い、男性利用者の得意なハーモニカに合わせて歌を歌うなど活気があります。また、食事作りは利用者と一緒に椅子に座っても出来る事に携わってもらい皆で準備しています。どんな食材の切り方になっても調理の仕方をひと工夫し、出来上がりも楽しみとなっています。また、カンファレンスや職員会議でその人らしい生活が送れているか話し合いケアプランに取り入れ、今出来る時に出来る事に取り組む事で家族にも喜ばれ信頼感も得られ安心した生活を過ごされているホームです。
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念としてはホームで作成したものがあるので利用している。	ホーム開設時に作成された「心生き活き、心楽しく、その人らしく」を理念としています。利用者が毛筆で書かれた理念を玄関、リビングや2階に掲示しいつでも見る事が出来、振り返れるようにしています。カンファレンスや職員会議で理念について、その人らしい生活が送れているか話し合いケアプランに取り入れています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭りやサロン、敬老会に参加している。回覧板を職員と一緒に次の方の家に持っていつている。	自治会に加入して回覧版が回って来たり、地域の夏祭りや民生委員中心で行われるサロン等に参加しています。また、中学生の職場体験を受け入れたり、地域の方がホームに草刈りに来てくれる等交流しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などでホームの状況、認知症の方の理解、支援方法を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で提案して頂き、今年初めてサロンに参加することができた。	自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員等が参加する運営推進会議を2カ月に1回開催しています。ホームの取り組みや利用者状況、看取りについて等を報告し、参加者から地域の行事案内を頂いたり意見交換をしています。ホームからも議題を出し意見を頂きながら解決するなど有意義な会議となっています。また、参加出来なかった家族には議事録を送付しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	取り組んでいる。こちらから行政の担当職員に会いに行っている。	市の担当者とは、何かあれば直接出向いて行ったり電話で相談しています。利用者状況やホームの空室の状況等を担当職員に伝え随時相談しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム開所以来、身体拘束はしないように取り組んでいる。どうしても拘束しないといけないときなどは家族に説明し了解を得ている。	身体拘束については、職員会議で話し合っています。職員は拘束について日々振り返り拘束に当たるような行為が合った時には管理者に相談し振り返る機会を持っています。また、玄関の鍵は施錠せず見守りを怠らず自由な行動が出来るようにしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士で注意しながら取り組んでいる。		

グループホーム三雲

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	これからの勉強課題として取り組んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、または面接時、不安や疑問点を尋ね説明に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に話を聞くこともあり運営に反映するよう努めている。	餅つき大会や食事会に家族を招待し話が出来る機会を作ったり、来訪時や電話でも意見や提案がないか聞いています。意見等はあまり出ない状況ですが意見を言いやすいように問いかけています。また、毎月介護相談員の受け入れを行い、行事にも参加し利用者や家族から直接意見を聞いてもらい出された意見は管理者に伝えています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議などで意見を提案してもらい取り組んでいる。	毎月の職員会議で意見や提案を聞いています。相談や意見があれば、その都度管理者に伝える事が出来るように職員との関係作りに配慮しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加は年度内に職員が一人ずつ参加できるよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	合同の運動会などを企画し、全員参加している。淡海グループホーム協議会の研修参加		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活環境の変化に慣れていただける様家族さんの想い、本人さんの要望などを聞いて話し合っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話し合い意見を聴いて、信頼関係作りや構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族さん、本人さんと話し合い、納得されるような支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を基本に、出来る事は自分でして頂き本人さんの意見は聞くように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	管理者を窓口、密な連絡を行い、家族さんと相談、意見を伺いながらの対応に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族さんや知人の面会がしやすいような声かけ、また、社会参加の機会を作るよう努めている。	入居前からの友達からホームに電話があり、会いに来て来てくれる事があります。以前から行かれていた地域の夏祭りやサロンに毎年継続して参加出来るように支援したり、家族の協力も得ながら自宅に戻る事もあります。馴染みの場所への外出等の希望があれば支援していきたいと考えています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	干渉し過ぎないよう見守り、トラブルになりそうなときは職員が間に入り共に生活している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年に数回TELし、近況を聞いたり家族さんの話を聞いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中からその方の想いを知り、把握へ努めている。その方の立場になり検討へ努めるようにしている。	入居前には、見学に来てもらったり家庭訪問をして、利用者や家族から多くの思いや情報を得ています。また、家族にセンター方式を記入してもらい、今まで使っていたサービス事業所やケアマネージャーからの情報ももらい、暮らし方の希望や思いの把握に繋げています。また、意思疎通の困難な場合は一緒に生活する中で表情や行動から思いを把握できるようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人さんや家族さんに話を聞いたり面会時に話を聞くなどし、努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を毎日見る中で把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	充分とはいえないがチームで話し合い、少しずつでも話し合いの中でのことを反映するように努めている。	利用者や家族からの希望や意向を基に介護計画を作成しています。3カ月毎にカンファレンスを開き職員の意見も取り入れ見直しを行っています。作成された介護計画は家族に送付し意見を聞いています。また、必要があればかかりつけ医の意見も取り入れています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	話し合いや申し送り時に共有するには努めているが充分には生かされていない現状である。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その日、その時に対応は変化するため、決めたことでもその方に合わせて対応するよう努めている。		

グループホーム三雲

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行っているふれあいサロンに参加。敬老会に行きハーモニカ演奏を披露。少しずつではあるが取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診が必要と判断した場合は随時NSが付き添って受診しDrの説明や処方された薬の使い方や注意点などをワーカーに説明、指導し協力を得ている。定期的に処方される薬をもらいに行く。	今までのかかりつけ医を継続できる事を入居前に説明しています。ホームの協力医の往診が毎月あり、日々の状況を伝え変化があれば指示やアドバイスを頂いています。また、職員である看護師が日々の健康管理を行い、本人や家族の安心に繋がっています。また、歯科は必要があれば職員と通院しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	一日の利用者様の状況を報告し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急搬送による入院に付き添い病院のDr、NSに経過などを伝えている。入院後も連絡調整を行ない、状況の把握と主治医への報告をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	認知症であるご本人の意向は十分に確認できないので家族と個別に時間を設けて説明し確認し書面をいただいている。	入居時に終末期の延命措置等についての同意書を得ています。その時の状況になれば再度話し合い、希望があれば家族の協力も得ながらホームで出来る限り支援していきたいと考えています。また、運営推進会議で看取りについて話し合っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月一回職員会議の後で30分ほど時間を設けて勉強会を行ない説明、指導、実施を行っているが1回では不十分なので繰り返し行う必要を感じている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画を作り消防訓練など取り組んでいる。	年に2回避難訓練を行い、1回は消防署立ち会いの下行っています。運営推進会議で参加者に協力してもらえようをお願いし、また近隣の災害時にホームで協力できる事を伝えています。	地域の方との具体的な協力体制を築かれるためにも、消防署が来たときにホームの状況を知ってもらいながら避難訓練や消火器の使い方等を一緒にされてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけ等は個々を尊重したものが出来ていると思われるが、オムツ、パット交換時などは徹底できていないように思われる。	お客様対応でなく、同じ目線での対応が出来るようにしています。家族に了解を得て、今まで呼びなれた名前を使っています。また、男性の利用者が入居した事で風呂場の暖簾をロールカーテンに取り替えプライバシーを守るようにしています。また、職員はその都度気付いた事等を管理者に伝え話し合う機会を持っています。	トイレが玄関に近くドアがオープンになっており、個室はカーテンで仕切られています。プライバシーの確保について利用者や職員の意見を出し合い話し合う機会を持たれてはいかがでしょうか。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく細かな声かけをし、利用者様に決定してもらえるように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り応えられるよう努めているが日勤者の数や多忙な際は忘れがちである。		
39		○身だしなみやおしやれの支援 その人らしい身だしなみやおしやれができるように支援している	出来る人には自分で選んでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みや食事量、食欲などに応じて利用者様に対応し、一緒に準備、片付けなども行っている。	担当職員が冷蔵庫に入っている食材を見ながら野菜が多く摂れるように献立を立てています。ほとんどの方が野菜を切ったり準備を一緒にしています。食材の切り方で献立を変更する事もありますが職員のひと工夫で無駄なくおいしく頂いています。職員も同じテーブルに着き同じ物を頂いています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分量、食事量を把握できるチェック表にして管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは行っているが全員、毎食後とは行えていない。		

グループホーム三雲

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限り行っている。リハパン対応のみではなく布パン使用するなどして対応している。	排泄表を利用して詳しく記録に残していません。日中は布パンツを使い把握した排泄のリズムに合わせ、時間を見ながら誘導や声かけをして、トイレで排泄が出来るようにしています。また、安心と安全の為夜間はおむつの使用や居室にポータブルトイレを置いている方もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を摂ったり朝1番にラジオ体操を行ない、身体を動かすことに取り組んでいる。食事野菜などを多く摂るように心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員側の都合ではなく利用者様の声を聞き無理強いないように支援している。又、誘導などは難しい利用者様に関しては職員間で話し合いフォローし合っている。	毎日朝から午後2時位まで入浴できるよう準備しています。三雲温泉と名付け、保湿が保てるように入浴剤を使い気持ちよく入れるよう配慮しています。基本は、2日に1回入ってもらっていますが、利用者の希望の声を聞き逃さず毎日入ってもらったり、午後からも入れるようにしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1日のうち昼からはお昼寝や趣味の時間に費やしていただく等、自分の時間帯を設け過ぎていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努めている。不明な点についてはNSに指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	午前中は昼食の下ごしらえ等、利用者様自身に出来る事を手伝ってもらっている。自由な時間についてはハーモニカを吹かれる方もいればそれに合わせて歌われる方もおられるなど、自由に楽しんでいただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日頃は駐車場にて外気浴など行っている。先日は利用者様の希望でなじみの京都の神社まで日帰り旅行を催した。	日々、公園や天保閣まで散歩に行ったり、ホーム前の駐車場で日光浴をしています。京都の神社までの日帰り旅行の希望に応じ喜ばれています。今後も利用者の行きたい時に希望の場所に行けるように支援していきたいと考えています。	

グループホーム三雲

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理は難しく、紛失時のトラブルや不安回避のため施設管理としている。外出時は自分で支払ってもらうなど取り組んでいきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族さんの帰宅される時間帯に電話できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	湿度、温度の調節などマメに行ない気持ちよく過ごせるような工夫をしている。	リビングの窓から見える山々の紅葉が色鮮やかで季節を感じさせてくれ、利用者の歌や話し声が聞こえ賑やかで楽しい時間を過ごされ自然と皆が集まる場となっています。温度や湿度の調整に気を付けながら気持ちよく過ごせるようにしています。また、廊下に椅子を置きゆっくりと過ごせるようにしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや玄関先に椅子を置いて外の景色を眺めながら話し合える空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使われていたものを使用して頂く等工夫をしている。	ベッドのみホームから用意しています。居室は和室で窓には障子が入っており落ち着いた雰囲気があり、居室前には利用者が毛筆で書いた表札をかけ1つの家のようにしています。入居前から家族と相談しながら、テレビや衣服収納ボックス、布団等今まで使っていたものを持ってきてもらい、その人らしい居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動時は手すりを使用してもらい、できるだけ自分で出来る事はしていただき見守りに努めている。		